

# 市町村合併を考える⑦

《キラリとひかるまちづくりをめざして》

4月7日 第2回 市町村合併町民懇談会開催



4月7日、町民センターを会場に第2回となる「市町村合併町民懇談会」が開催されました。今回は、任意協議会での検討事項について説明した後、参加された皆さんとの意見交換が行われ、庁舎の場所や町名など、合併に関するさまざまな意見が出されました。

瀬棚町の将来を考えると  
最善の道は『合併』

## 平田町長の開会あいさつ

### 変わらない 国の姿勢

町民の皆さんとの直接の懇談会につきましては、しばらく開催しておりませんでした。この間、国の合併方針というものの動向も見ながら、町内における各関係団体・機関の代表の方々と構成しております市町村合併検討協議会の開催や、議会においても特別委員会のための議論、また北部3町での任意の合併問題協議会を中心にしながら、いろいろと今日まで議論を

重ねてまいりました。

一方、国の強制的と言われるような合併政策について、全国・全道の町村会としても政策の転換について要請をできております。

しかし、国の合併に対する姿勢は、地方の財政対策も含めて、一向に変わっていないという現状でもあることはご承知のとおりでございます。

今日は、こうした一連の内容をご報告しながら、改めて皆さんと合併についての懇談をしたいと考えています。

### 決断が 迫られています

国の経済政策の失敗、地方財政計画の問題、こういうものが我々に合併という問題を押し付けているのではないかと。という考え方を持っている方も多いと思います。私もそのような考えを持って一人です。

しかし今、国の財政、地方の財政を見ましても、ど

ちらも行き詰っているという段階の中で、この責任問題を議論しても問題の解決にはならないだろうと思います。

もうすでに、昭和の合併から50年経ちました。この間における瀬棚町の人口は半分以上になりました。高齢化も随分進んでまいりました。町財政も慢性的な財源不足が続いている現状です。また、消防行政、環境衛生行政、福祉行政にいたしましても、広域行政の中で進められている現状にもございます。

また、産業団体においても農協・漁協の合併も行われたという事で、地方の行政の形が根本から変わってきているということも考えなければならぬと思っています。

今日は、こうした現状を踏まえながら、いろいろ資料も作成したり、3町が合併した場合を想定した町の在り方の資料づくりもしてみました。

今ここで、国の合併政策に乗って新しいまちづくり

を考えていくのか。それとも国に背を向けていくのか。決断を迫られている現状です。

### 現状を考えると 合併が最善の道

今までの議論、さまざまな情報、そして今日の資料の提供などにおいて、いろいろな考え方を持たれると思います。私の現在の考え方としては、率直に申し上げまして今の瀬棚の現況を考え、さらに20年30

年の将来の展望を考えた場合に、大変つらい決断になるかも知れませんが、合併の道を選ぶことが最善の道ではないかと、そんな考え方を現段階で持っています。

いろいろとご批判や意見もあろうかと思いますが、今日は皆さんの忌憚きたんの無いご意見をいただければありがたいと思っています。

